

名 称	にしおボランティア市民活動センター
所 在 地	〒445-0852 愛知県西尾市花ノ木町2丁目1番地
連 絡 先	TEL : 0563-57-0469 FAX : 0563-57-0455 URL : http://www.katch.ne.jp/~saposen

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 西尾市 107,000人

西尾市は、西には豊かな実りをもたらす矢作川が流れ、東に緑の丘陵地、南に三河湾が広がっている。市が施行されたのは昭和28年で愛知県下14番目の市として誕生し、以来西三河南部地域の中核都市として自動車関連産業の発展とともに着実に成長を続け、日本一の生産量を誇る抹茶や洋ランの栽培、植木や花などの特産物でも注目を集めている。特に、抹茶については、平成18年10月に「ギネスに挑戦！まちなか1万人大茶会」を開催し、ギネスに認定された。

江戸時代から松平六万石の城下町として栄えてきた西尾市は、歴史的な史跡や名所が多く点在する文化のふるさとで「三河の小京都」として認められている。こうした自然・産業・文化を守り、育て、市民とともに考え、行動し、協働のまちづくりを推進して、将来を担う子供たちが「夢を描くことのできる西尾市」を築くことができるよう活力あるまちづくりを目指している。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「車いすダンス」

車いすダンスは、障害者と健常者のコミュニケーションが、ごく自然に行われてきたヨーロッパの歴史の中で自然発生的に始まり、その後、現在の車いすに乗っている方（ウィールチェアードライバー）と健常者（スタンディングパートナー）がコンビを組んで踊る方式が主流となり発展してきた。

車いすダンスは、競技スポーツという面以外にも、障害の種類や程度・年齢・技術に合わせ、ダンスの種類（モダン・ラテン・民謡・フォークダンス・新体操など）や方法を変えられるという点で、「生涯スポーツ」に適した面も併せ持っている。

一般の車いすでも、ダンスを楽しむことはできるが、ダンス用車いすの使用で、少ない力で、より速い動きや、回転が可能になり、音楽に合わせて踊る車いすダンスは、リハビリテーションとしても大きな効果を持っている。障害のある者にとって、本来なら辛い動きも、音楽

と共に、楽しく動いてしまう。障害者、健常者を問わず、音楽に乗り身体を使って自己表現する喜びを体験することができる。他の障害者スポーツと大きく異なる点は、障害者と健常者が協力し合い一つの目標を達成する点にある。

今回の事例では、車いすダンスを通して、高校生、専門学校生、大学生が下記の3点を達成することを目標にした。

- (1) 障害者への理解を深め、障害者と力を合わせ協力し一つのことを成し遂げる、達成感を得ること。
- (2) ボランティアをされる側にあった障害者を、ボランティアをする側へ立場を変える手助けをし、その喜びを共有する。
- (3) 年齢、障害の有無を越えて交流し、コミュニケーション能力を身に付ける。

西尾市福祉センターふれあいホールで、高校生、専門学校生、大学生、看護師、主婦、社会人などの健常者と、障害があっても立位で行動できる方、自走車いす使用の方、電動車いす使用の方、様々なメンバーが、車いすダンスインストラクターの指導を受け練習を重ねた。

車いすダンスの踊れるレパートリーが増え、発表の参加が決まった段階で、自発的に練習する姿が、見られるようになる。

西尾市にある身体障害者療護施設ピカリコでの毎月1回の車いすダンス講習ボランティアを、学生をはじめ、電動車いす使用のメンバーと協力して行う。

自信にあふれた電動車いす使用のメンバーの笑顔を見て、目標であった「ボランティアをする側へ立場を変える手助けをし、その喜びを共有する。」の達成の手ごたえを感じる。

10月に西尾市福祉まつり（西尾市福祉センター）、11月に碧南市市民ふれあいフェスティバル（碧南市臨海体育館）に参加し、車いすダンスの演技発表と、一般参加者への車いすダンス講習を行う。発表のために、ダンス用車いすの運搬や、車いす使用のメンバーへの補助など様々な問題をメンバーの協力で乗り越えなければならない。これらの発表で「障害者と力を合わせ協力し、一つのことを成し遂げる達成感を得ること。」を体験することができた。にしおボランティア市民活動センターの夏休み企画「車いすダンス体験」では、講師としてメンバーが参加し、講座参加の小学生に、車いすダンスの楽しさを伝えることができ、10代のメンバーも60代のメンバーも、障害の有無も越えて楽しく交流する姿が見られた。

コーディネートの実際

それぞれの相談依頼

当センターに下記のボランティア相談が寄せられた。

- (1) 福祉関係に進学希望の高校生から、障害者と関わるボランティアをしたいという電話相談。
- (2) 教育大学生から卒論の調査のため障害者スポーツボランティアに継続的に参加希望の相談。

- (3) 西尾市にある身体障害者療護施設ピカリコから、定期的な車いすダンス講習ボランティアの依頼。
- (4) 既に西尾市内で活動していた、社会人・主婦がメンバーの「車いすダンスサークル」は、発表会への参加や自分たちの技術の向上を目的に発足したが、活動を進めるうちに、自分たちが楽しむためだけでなく、障害のあるメンバーが「ボランティアをされる側からする側へ」活躍の場を広げるよう支援できないかと考えるようになっていた。

以上の四つの相談を結びつけ、若い年齢層が、障害者と共にできるボランティア活動のコーディネートをした。

活動の目標を決める

車いすダンスを通して、高校生、専門学校生、大学生などの若い参加者が三つのねらいを達成することを目標にした。

第1は、障害者への理解を深め、車いすダンスをすることで、人としての生きがい・触れ合い・生きる喜びを実感する。障害者と力を合わせ協力し、一つのことを成し遂げる達成感を得る。

第2は、ボランティアをされる側にあった障害者を、ボランティアをする側へ立場を変える手助けをし、その喜びを共有する。

第3は、年齢、障害の有無を越えて交流し、コミュニケーション能力を身に付ける。

若い年齢層を募る

センターにボランティア希望の相談をした高校生及び大学生以外の若い層の参加を募るために、西尾市立看護専門学校の学生に呼びかけメンバーを募集した。高校生、看護専門学校生、大学生、看護学校卒業生である看護師を含め10人が集まる。その後もセンターの機関紙等でメンバーを募集した。

「ボランティアされる側からする側へ」の提案と

車いすダンスボランティア部への協力依頼

自分たちの技術の向上を目的に活動していたことに、行き詰まりを感じ、センターに相談していた「車いすダンスサークル」のメンバーは、障害のあるメンバーが「ボランティアをされる側からする側へ」活躍の場を広げるよう、サークル名を「車いすダンスボランティア部」にし、その趣旨に賛同するメンバーで新たなスタートをし、より自由なボランティア活動が始まる。

「車いすダンスボランティア部」には、障害のない者、ある者、電動車いす使用者、自走車いす使用者、障害があっても立位で行動できる者など、30代から60代のメンバー15人がいる。今回のコーディネートは「車いすダンスボランティア部」のメンバーはもちろん、若いメンバーにとっても、年齢や障害の有無を越えた、協力の大切さを体験することができ、双方に多くのメリットがあると考えた。普段はボランティアをされる側の障害者が、車椅子ダンスを習得し、若い健常者ボランティアの協力を得て「ボランティアをする側になろう」という希望を持ち始めた。

ダンス用車いすでダンスの練習

西尾市福祉センターには、基金で購入したダンス用車いすが5台ある。少ない力で、より速い動きや、回転が可能な車いすの使用で、より楽しく音楽に乗っての動きが可能になる。また、センタースタッフに車いすダンスインストラクター有資格者がいる。その指導のもと「車いすダンスボランティア部」メンバーと、高校生、大学生、西尾市立看護専門学校生を含んだ合同メンバーの練習会を西尾市福祉センターで行う。

身体障害者療護施設ピカリコへの講習ボランティア活動体験と

「ボランティアされる側からする側へ」の喜びの共有

練習を重ねた合同メンバーは、身体障害者療護施設ピカリコからの依頼のあった、月1回の車いすダンス講習ボランティア活動に参加する。ピカリコには「車いすダンスボランティア部」の障害のあるメンバーに比べ、より重度の障害のある入所者が多い。当初、高校生や大学生は、どのようにして接したらよいのか分からないことからの、戸惑いや不安で、笑顔も見られなかった。

ボランティア経験豊富な年配のメンバーからそれぞれの障害に応じた対応方法のアドバイスを受け、また障害のある車いすダンスメンバーからも助言をしてもらう。やがて回を重ねる頃には、若いメンバーも次第に打ち解け、笑顔や差し伸べる手にも温かさが出てくるようになった。電動車いす使用のメンバーも講習ボランティアとしてダンスの手本を披露し、指導をするようになり、ピカリコの皆さんもボランティアも、次回の講習を楽しみに待つようになった。

福祉まつり、フェスティバルへの参加と、練習の工夫

練習とボランティア指導の経験を積んだ、合同メンバーは、10月に西尾市福祉まつり（西尾市福祉センター）、11月に碧南市市民ふれあいフェスティバル（碧南市臨海体育館）に参加を決める。若いグループが、自発的な練習に励む姿が見られアルバイトを調整し、熱心に練習に参加するようになる。

様々な年齢層や、障害のある者、ない者の混じった小グループに分かれ、振り付けの中に自分たちで創作する部分を作り、話し合いの機会を増やす工夫を取り入れた。障害の有無や年代を越えて、熱心に相談する様子が見られるようになった。

発表の準備にはダンス用車いすの運搬はもちろん、送迎・介護を含んだ中での、車いすダンスの活動がある。電動車いす使用の障害者もメンバーに含まれるので、休憩時の食事等の介助や衣装の着替えの手伝いもボランティアの重要な役割である。車いすダンスの活動を通して、相手の身体や、心の状態を思いやる行動が若いメンバーに見られるようになった。

発表後は、全員、達成感で笑顔が溢れていた。

成果と今後の留意点

今回、コーディネートした車いすダンスは、目標の達成という成果に加え、障害者のリハビリ効果や、引きこもりがちな障害者の社会参加の機会を作ることができた。

教育大学生、看護専門学校生、また、福祉関係に進学希望の高校生のボランティア参加であり、一般の学生と比べると、普段から、障害者と接する機会も多かったのではと考えられ

る。しかし、車いすダンスが、電動車いす使用者でも楽しめ、障害のある者、ない者が、半分半分で力を合わせ完成することに驚き、障害者の大きな可能性に理解が得られたことは大きな収穫であろう。今後は福祉関係に進むことが希望の学生だけでなく、より広い分野の学生の参加が必要である。



フェスティバルでの発表



ピカリコでのボランティア

執筆者職・氏名：西尾市企画部企画課

にしおボランティア市民活動センター 榎本 宣子